

株式会社河島建具

支援メニュー ●とやま起業未来塾 ●専門家派遣事業 ●地域資源ファンド事業 ●小さな元気企業応援事業

木製建具の復活を期す3代目を 産業支援メニューが後押しして



▲ 地域資源ファンドの支援によりでき上がった木製建具の一例。井波彫刻がほどこされた木製ドア(左)は全国建具展示会東京大会で技術委員長賞を、組子と高岡漆器の螺鈿を融合させた式台(右)は富山県家具展で砺波市長賞を受賞した。



「SOZAI(素材)展in Gift Show」で
展示した組子サンプルの一例と同社の
展示ブース。

「日本の伝統的な木製建具を復活させ、その技術を継承していきたい」

河島建具の3代目・河島隆志社長は学生時代にそう思った。氏が学生の頃はアルミ製建具が市場を席巻していたが、木製建具への思い入れが強い河島青年は、伝統技術を受け継ぐために建具職人の下での修業を決意。卒業と同時に弟子入りした。6年間、カンナやノミ、木とだけ向き合う毎日。建具の技術の他に、組子や象嵌についても習得した。

ところが河島建具で仕事を始めると、注文のほとんどはアルミ製建具で、その取付工事に追われるばかり。木製建具復活については取り組むこともできずに悶々としていたのだが、「とやま起業未来塾」(平成23年度)に入って、木製建具復活についてのビジネスプランをまとめることに。その美しさを知っていただく方策や販売についても検討した。さらには従来の同社の商圈は地元砺波市であったが、木製建具の復活では「全国も」と夢を大きく持った。

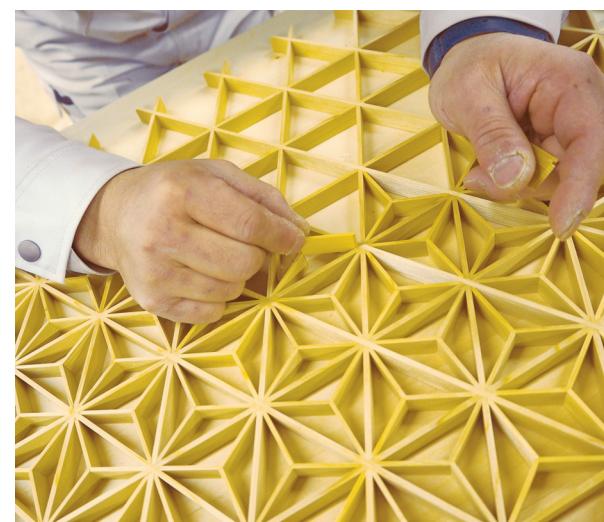
忙しさに心を失わないように

未来塾6ヶ月の講習を経て、木製建具復活のプランをまとめた河島社長。組子の普及から始める構想を持った。しかし未来塾修了後は再びアルミ製建具の取付等に追われてしまった。「このままでは折角のプランが埋もれてしまう」と思った氏は、当機構の「専門家派遣事業」を活用して経営コンサルタントを招き、中長期の事業計画を策定することに。業務の優先順位を明確にし、煩雑さに振り回されないようにした。当時の状況を河島社長は、「私は全国への挑戦で頭がいっぱいでしたが、専門家の『思いだけで空回りしてはいけない』というアドバイスで、冷静になれました」と振り返った。

事業計画は直近、2~3年後、4~5年後とスパンを区切り、専門家のリードの下でそれぞれの経営課題と対策を掘り下げ、社長と夫人が意見交換しながら策定された。その時、全国への挑戦は4年後と定められた。



▲ 組子専用のカンナで、組子の角の厚さなどを0.01mm単位で調整していく河島社長。



▲ 組子制作の様子。長さ、厚さ、角度がわずかでも異なると組めない。昔は一人前の職人になるには10年かかるといわれたが、「ITが発達した今日では、5年くらいで一通りの技術が身につくのではないか」という。

そして具体的な準備は、「地域資源ファンド事業」の採択を通して行われることに。越中和紙、高岡漆器、井波彫刻などの富山の伝統技術と、組子の技術の融合により、新たな木製建具の商品化を試みた。それが左上に示した3点だ。

夫人の亜紀さんが語る。

「これらを高岡イオンモールで行われた家具展に出展したところ、『組子がうつくしい』と多くの方にほめていただきました。ただ皆さんの様子から、いきなり組子を使った木製建具を紹介するより、インテリア用品などに組子を施し、そこから木製建具に関心を持ってもらうのがいいのではないかと思いました」

河島社長の新たな指針が見つかった。

組子がパリへ

そして平成28年度の「小さな元気企業応援事業」の支援を受けて、組子と象嵌の技術を用いた「和モダンな食卓おもてなし製品」の開発に着手。お盆などの生活雑貨での組子の応用を図った。その一例が左下のものだ。「東京インターナショナルギフトショー2017」の併設展「SOZAI(素材)展」などに出展したところ注目を集め、「代金をいただく際のトレイによい」「接客用のお菓子を載せるプレートに使いたい」という声が寄せられた。

この展示会では、100社ほどから問い合わせをいただいたものの、生産体制の都合上、小ロットのものから受注し始めた。出展には副産物もあった。組子サンプルがパリの建築資材関係者の目に留まり、現地の

ショールームで紹介されるように。それを見た温泉施設建設中のオーナーが導入を決め、そのエントランスを飾る大きな組子パネル2枚が、パリへと旅立ったのだ。

一連の取り組みから課題が見えてきた。組子製品を企画・製作する手が足りないのである。河島社長は相変わらず、アルミ製建具の工事に追われている。そこで氏は組子職人を養成することを計画。3人の新人を雇用し、5年かけて育てる予定だ。その際の教育プログラムや人員増による財務負担とその対策などを、再び専門家派遣事業を活用して策定しようという。飛躍を期して、足腰の強化を図ろうというわけだ。

職人一本槍だった河島社長に経営者の顔がのぞき始めた。

Profile

所在地	砺波市荒高屋511-2
資本金	400万円
従業員	2名
事業	木製建具の製造・取付、アルミ製建具の取付など
T E L	0763-32-0105
F A X	0763-33-7105
U R L	http://kawashima-tategu.com



木製建具復活への夢を語る河島隆志・亜紀夫妻。